

令和6年度 市民協働モデル事業取組レポート

事業名

イソマチマルシェ

地区名

磯GO！みらいの会

代表者肩書・氏名

会長 鈴木 節也

●事業の目的、目指す将来像など

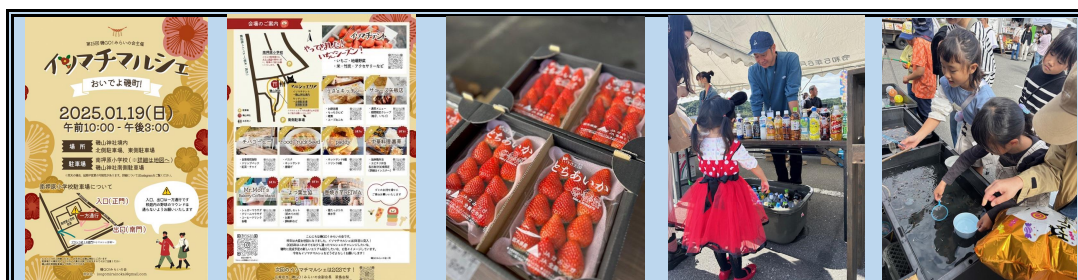
磯町は純農村地帯で人口も減少、超高齢化社会にある。年々人との交流も少なくなり、寂しさを増している。この状況を少しでも解消し、誰もが豊かで安定した生活ができる地域おこしをすることは喫緊の課題である。その課題解決のため、若者による「磯GO！みらいの会」が発足した。「地域の人に現状の認識と郷土愛を育んでもらう」「地域の農産物のブランド化を図る」「キッチンカー応援による集客を図る」これらの目的を達成するために令和5年より、年間6～8回のイソマチマルシェを開催している。この先は、自治会、企業との連携を図り、運営のノウハウを知り、発展・充実と、地域おこしに役立てたい。

●今年度の事業の取組実績

磯GO！みらいの会主催「イソマチマルシェ」は、令和6年度は6回実施。地域の特産物イチゴ、ニラ、地元野菜の直売の他、キッチンカーの出店販売、企業による製品販売、ワークショップ等の内容で開催された。毎回、500～1000名以上の集客、商品はほぼ完売した。6月は磯山神社の「あじさい祭」とコラボ開催し、約20店舗の出店。小中学生や地域の高齢者にもスタッフとして参加してもらうほどの盛況ぶりであった。10月には自治会が支え合い事業として実施している「おたがい様市」を南押原友遊館と共催で行った。他地域の多くの人との交流は互いの事業内容を理解し合えた。また、人と人との仕事を通しての触れ合いは知らない人たちとの交流が生まれ深まった。他の団体とのコラボは、互いにこれからの運営面でプラスになり新たな方向性も生み出している。1月に実施のマルシェは、磯町特産物のブランド化を図る販売の工夫もなされ、一味違うものとなった。

●今後に向けての展望、意気込み

磯GO！みらいの会の事業のひとつに「イソマチマルシェ」があり、磯町の地域おこしに役立っている。これから先のマンネリ化を防ぎ、さらに発展・充実していくことを考えると、企業とのコラボレーション、地域住民の多数参加が不可欠である。現在、出店店舗の一つであるコッペパンジャーニーさんと地域の子どもたちが共同で計画、製造、販売までを行うことが実現しようとしている。自分たちのアイデアパンが実物になり、自分たちの手で売られ、買い手に喜ばれるこの一連の動作は一生忘れられない感動の記憶となるだろう。少子高齢化社会においては、支え合い、助け合い、おたがい様の精神が必須であるが、マルシェをきっかけにそれらが芽生え地域全体に一体感を生んでいる。無償ボランティアで臨むスタッフが回を重ねるごとに増え、世代の垣根を越えての参加となっている。また、年に何度も開催することで定期的な交流が生まれている。これぞ成果の一つである。次回のマルシェは地元産の野菜や米を使った豚汁やおにぎりを初めて振る舞う予定。さらに再来月は初めてのパンフェスを予定している。



イソマチマルシェの様子